

もう少し簡潔に生きたいから

黄春陽

「二面性がある人」という言葉はあまり聞こえが良くない。しかし、一面だけで生きている人などいるのだろうか。むしろ人はサイコロのように多様な側面を持ち、時と場合によって違う側面を同時に出し、決して一緒に出ない真逆の面も存在する。しかし、その面が多すぎると生き辛いのもまた事実。本当の自分がわからなくなり、どうしようもない不安に駆られる人もいるのではないだろうか（もっとも、サイコロのようにそれ自体が本体である。わかっていても悩むが）。

在日コリアンの中には朝鮮籍を持つ者が一定数存在する。しかし、現代社会において「海外旅行に行きたい」「法的恩恵をうけたい」という欲求は至極真っ当だ。そのために朝鮮籍から韓国籍へと変えることは珍しくない。私もその中の一人だ。物心つく前、ハワイ旅行をきっかけに親戚一同国籍を変えた。パスポートに書かれた「大韓民国」という固有名詞は私が何者かを示す一つの指標であり、それを持つ以上韓国人という側面を持つことは紛れもない事実である。しかし私を、在日コリアンを表すにはそれだけでは言葉足らずなのだ。

幼稚園の頃から朝鮮学校に通い民族教育を受けてきた私は、韓国籍も含めて自分は朝鮮人であるということに納得していた。しかしアルバイトで履歴書の国籍欄に「韓国」と書くと、当然私は「韓国人」として扱われるようになる。日本で生まれ育ったことを知ったうえで強い違和感を感じる日々を送った。なぜなら今の日本社会において在日コリアンという存在はあまり認知されておらず、皆が思う「韓国人像」と私の生い立ちはかけ離れているからだ。

韓国籍と言えば「いつからこっちに来たの?」、生まれも育ちも日本だと言えば「じゃあハーフなんだね!」、在日コリアン 4 世代目だというと「じゃあ日本人と変わらないよね」、決してそうではないというと「めんどくさいし何でもいいじゃん」と何度も言われる日々。善意と興味で聞いてくれることは重々承知、悪意が無いからこそ酷な悪循環に陥ってきた。いくら説明しようとも在日コリアン固有の歴史は全く違うものととえられることしかできない。それが毎回となると自分の存在意義に迷い、精神をすり減らし、心の容量が無くなってきたところに「韓国人」だけで完結する便利な側面が出来上がった。美容室での雑談やネームプレートを見たお客さん、もう一生会わないだろうという人に見せる「韓国人」の側面。見せるたびに私の存在を放棄した気がして罪悪感に苛まれる側面。確かに私は「韓国人」でもある。嘘はついていないがつつまが合わないことをどうしても割り切れないのは、同じ思いをしている在日コリアンを何人も知っているからだ。

私の中にある、隣あった似て非なる二つの側面。チョゴリ通学をしていた頃は生活の中に在日コリアンが当たり前のように存在していたと聞く。その時代に生きていたのなら、あるいはチョゴリが切り裂かれず今もその姿で通学していたのなら、私の側面は今より一つ少なかったのだろうか。

私と同じ時代を生きた同年代と話していると、在日コリアンの説明をしてもあまりピンとこず、かなり特殊なものだと受け取られることがよくある。「朝鮮学校」や「朝鮮籍」など「朝鮮」という単語に至っては、話を逸らされることもある。なんだなんだ、私の存在はタブー視されているのかと疑問に思い、毎朝のニュースで納得してしまう。

個人が頑張るにも限界はあるし、何なら今まさに在日コリアンは権利獲得や日朝交流などあらゆる手を尽くして存在を勝ち取ろうとしている。それでもなお難しいのなら、二つの側面が分離したままなら、最終手段はただ一つ。

「統一しちゃえばいいのに」。